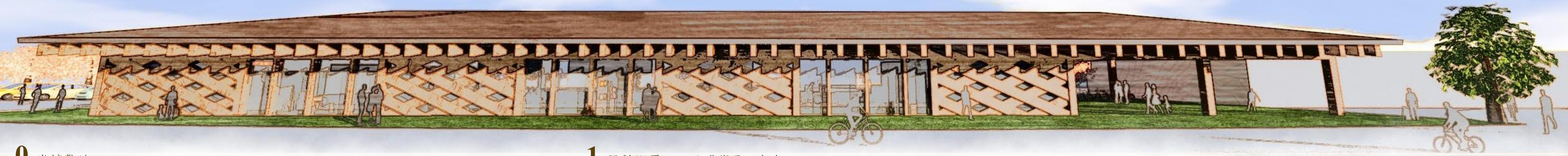
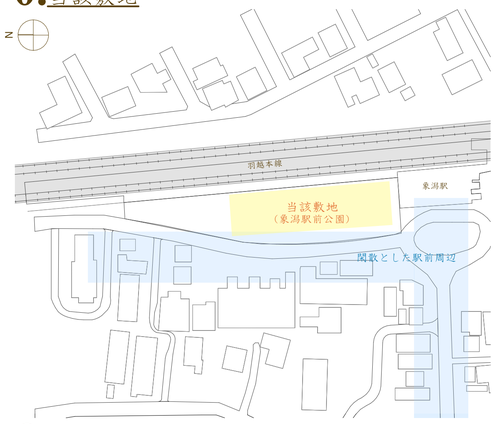
復興の長屋

木育を通して伝統的な豊かさを再生するきっかけを



0.当該敷地



0-1.敷地周辺の特徴と現状

対象となる敷地は，秋田県にかほ市象潟町に位置する南北約60m×東西約20mの公園広場である。当該敷地は土砂災害避難所としても指定されている。

公園というものの，賑わう様子はなく人の気配はほぼ感じられない。それに伴って駅前通りも閑散としており，商店街はシャッターが閉まっている店が多く目立つ。

0-2.敷地周辺の課題

にかほ市の人口増減率はマイナス幅を拡大して推移しており，若年層の都市部への流失や少子高齢化の割合が極めて高い。

→地域の文化や伝統の継承が難しく，地域活力が低迷している。

また，近年数多く発生している異常気象による大雨の影響で，対象地域は深刻な被害を受けた。

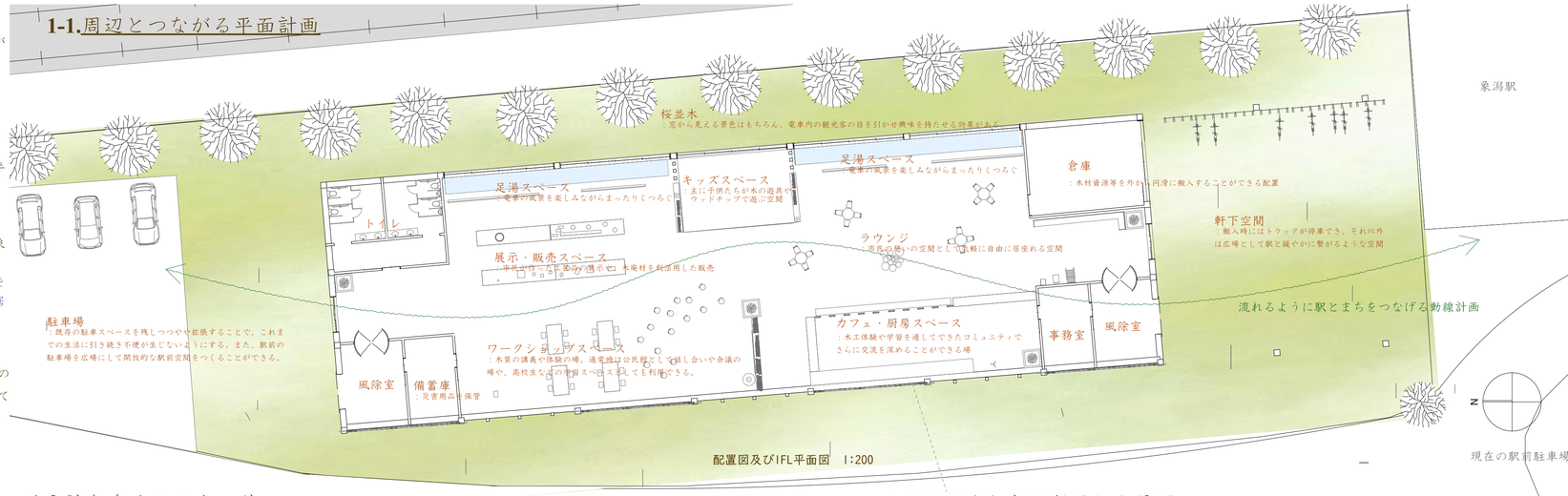
→心のケアが未だ十分でない子どもをはじめ，豊かな感性や生活を育む場として，市民が安心して過ごすことのできる，拠り所となる居場所のような空間が必要である。

1.設計概要 ： 地域復興×木育

秋田県内の森林資源は年々成熟しており本格的な利用期を迎えているという現状を踏まえ，持続可能な社会に貢献するための地域産材を活用した“木育”施設を提案する。少子高齢化と若者人口の転出の割合が極めて高い秋田県において，新たな世代へと文化・伝統継承の拠点となる場が必要であると考えた。新たに人と人とが出会い互いの知恵を伝え合いながら人材育成を目指し，常時は地域の人々の居場所としてふさわしい公民館として，非常時は避難所として利用することができる。

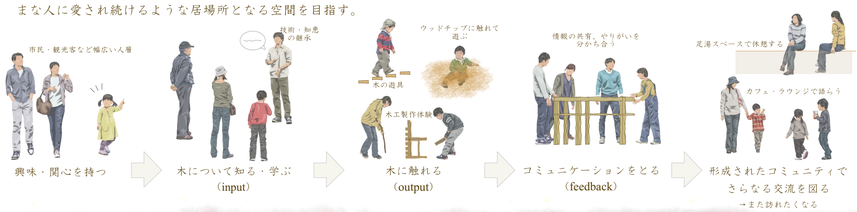
地域産材を使用した本建築を通して木の温かみを身えながら，人々が気軽に立ち寄ることによる駅周辺のかつての賑わいや，五感を刺激し豊かな感性や生活を育むことによる人々のこころの明るさを取り戻し，木育をはじめとした地域復興を目指す。

1-1.周辺とつながる平面計画

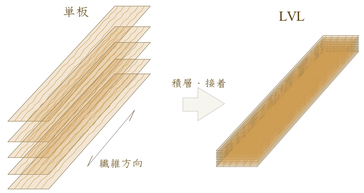


1-2.訪れた人のストーリー

市民だけでなく，電車でこの地に訪れた観光客なども積極的に利用でき，あきたで“木”を学び，あきたの“木”を触れながら，さまざまな人に愛され続けるような居場所となる空間を目指す。



1-3.LVL材を有効利用した長屋

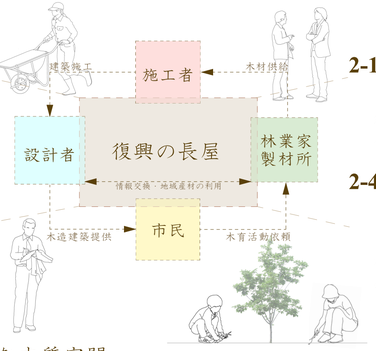


前面道路に向かって象徴的な役割を果たすLVL格子は，品質のばらつきが少なく安定しているという特徴を活かして，まちに木材の美しい景観を創出するとともに，内外を仕切っているものの解放感を併せ持つ。

また，内装の柱や梁にもLVL材を使用する。LVLは単板をつなぎ合わせてできているため，長尺通直材が得られるという利点を活かした，木造長屋というスケール感は，象潟駅の古き良き外観と緩やかに繋がりつつ周辺の住宅のまちなみに調和する。

2.人々の連携循環による森林資源の保全

あきた地域産材を使用した本建築は，二酸化炭素の固定効果だけでなく，林業家や設計者等との間にもコミュニケーションを育み，山の保全や産業の活性化への可能性に貢献する。秋田県産の森林資源の活用は，人々の連携循環をつくりだし，それによる森林資源の保全が持続可能な社会へと繋がっていくと考えられる。



2-1.成長時の二酸化炭素吸収

森林の中で長い間育っていく木は，自然光による光合成により，大気中の二酸化炭素を吸収して成長する。

2-2.二酸化炭素の固定

木造建築物は二酸化炭素を蓄え続ける働きがあるため，地球温暖化等の防止に繋がる。

2-3.木材利用活動の展開

木材・木製品も同様に二酸化炭素固定の働きを持つため，設計者による木育施設の提案は木材を最大限利用する場として非常に有効である。

2-4.木育及び植林活動の推進

市民と地場林業家や熟練技術者が関わり合い，木育活動の依頼や植林活動に参加し，新たなコミュニティの形成と文化の継承・再生を図る。

3.五感を刺激するさまざまな木質空間

地域市民に馴染み深い秋田杉を多く使用し，木の温もりを感じられる空間である。

スギは菌の繁殖を抑える成分が含まれているため耐水性が高く，水分や湿気に長期間触れていても腐食しにくいという特徴を利用して，スギの足湯空間を設けた。素足でスギを直接感じることができ，より大きなリラックス効果をもたらす。

定期的に木工体験教室をイベントとして開催し，地場林業家や地域の製材所を招き，この施設を通して若年層へ文化・伝統を継承する。閉じた空間にせずオープンな空間とすることで，偶然通りかかった市民の視覚や聴覚を働かせ，気軽に参加できるような空間を提案したいと考えた。また，キッズスペースにいる子どもの様子を，木工体験をしながら視野に入れることができるため，安心して楽しむことができる。

使用されなかった丸太の廃材を有効活用し，丸太の椅子としてラウンジの中心に設ける。山の中で長い間育ってきた木々の時間が，そのまま建築物のなかに息づいていることを五感を通して感じられる空間であり，このような廃材資源の有効活用は，持続可能な社会に大きく貢献する。